

高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年2月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第5週(2月1日～)から第8週(～2月28日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国での1月の上位6疾患の合計は17.83で1月の16.83と比べて横ばいであった。新型コロナウイルス感染症対策の活動自粛と衛生管理により日常的感染症は少ない状態が続いている。インフルエンザは15位0.05で、12月、1月の0.04と比べて少し増えたものの、流行には至っていない。

1位は感染性胃腸炎で10.79(1月1位10.50)と横ばいだった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.92(同2位2.56)と少し増加した。3位は突発性発疹で1.41(同3位1.49)と横ばいだった。4位はRSウイルス感染症で1.26(同6位0.63)と増加した。5位は咽頭結膜熱で0.80(同4位0.86)と横ばいだった。6位は流行性角結膜炎で0.65(同5位0.79)と少し減少した。

<新型コロナウイルス感染症 COVID-19>

世界の患者数は図1左に示すように、3月3日には1億1442万人を、死亡者は253万人を超え、やや加速度が緩んだものの終息の見通しは立っていない。患者数を国別でみると、1位米国、2位インド、3位ブラジル、4位ロシア、5位英国、6位フランス、7位スペイン、8位イタリア、9位トルコ、10位ドイツである。1位の米国での死者数は3回の戦争(第2次大戦、ベトナム戦争、朝鮮戦争)の米国犠牲者数を超えた。

一方、世界各国でワクチン接種が進められ、有効性が報告されている。日本でも2月から、米国ファイザー社開発のmRNAワクチンの接種が開始され、効果に期待が高まっている。思い出されるのは60年前のポリオ麻痺多発である。1961年、ときの厚生大臣古井喜実が「責任はすべて私にある」とセービン株経口生ポリオワクチンを旧ソ連(とカナダ)から緊急購入し、幸運にもポリオの終息がもたらされた。ワクチンの副反応や抗体依存性感染増強(ADE)を心配する声もあるが、コロナ禍収束を切望する全人類的期待がはるかに上回っている。

日本の患者数を図1右に示す。11-12月以降に増加の勾配が急峻となっていたが、2月になって加速度が緩んだ。1月7日以降に11都府県に発出された緊急事態宣言の効果が2月になって表れた。感染者数の減りきらない一都三県においては、緊急事態宣言は3月21日まで再々延長された。3月3日時点の国内の感染者は433,504人、死亡者は7,933人となった。

COVID-19は高齢になるほど死亡率が高い。図2に示すように、日本での高齢者における死亡率は経時的に変化がみられる。80歳以上の患者における死亡率は、昨年6月11日時点では20.1%であったが、本年2月3日には11.7%となり、徐々に低下してきていた。しかし、3月3日には13.6%となり、初めて上昇に転じた。70歳台も下降の一途をたどっていたが、2月4.4%から3月5.2%へと初めて上昇した。その理由として、医療体制逼迫の影響、ウイルスの強毒化などの機序が考えられ、今後の動向が注目される。

高齢者の感染者数増加は死亡率増大に直結するので、年齢層別患者比率の監視が重要である。図3に示すように、夏までは、20～30代の感染者が増加し、高齢者の感染は抑制されていた。しかし、11月以降は年代ごとの増加率に差がなくなり、2月は70歳以上の感染者増加が目立ってきている。高齢者施設でのクラスター発生の関与が疑われる。なお、図に表示された厚労省HPの各数値は、個々の集計方法のちがいで数値に不一致があるので、あくまで参考として参照されたい。

変異ウイルス株については、現在3種類が注目されている(国立感染研HP: <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/10220-covid19-36.html>)。いずれもウイルス受容体を含むスパイク蛋白(ウイルス表面を覆い、受容体であるACE2蛋白に結合する)に関わる遺伝子変異を起こした株である。①Variant of Concern(VOC)-202012/01: 英国での急速な感染者増加に関与したと推測され、伝播のしやすさを最大70%

増加させる。この株が重症例を増加させるかについては意見が分かれており、ワクチン効果に差異が生ずるかについても不明である。②501Y.V2：南アフリカ保健省が2020/12/18に公表した新規変異株で伝染性が5割程度高いとされるが、重症化をもたらすとの根拠は乏しく、ワクチン効果への影響についても不明である。③501Y.V3：1月6日にブラジルから日本に入国した4人から検出された株で、重症化やワクチン効果への影響については不明である。いずれの変異ウイルス株も既に日本で検出されている。慎重にその意義を判断することが肝要だが、その一方で、これら変異株の蔓延を防ぐ水際対策などの迅速な対応も行われている。また、近いうちに地方衛生研究所でも変異ウイルスの検出が実施可能となる。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	1週	5週	6週	7週	8週	計
1	感染性胃腸炎		2.83	2.63	2.79	2.54	10.79
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.79	0.73	0.73	0.67	2.92
3	突発性発疹		0.37	0.35	0.35	0.34	1.41
4	RSウイルス感染症		0.25	0.27	0.33	0.41	1.26
5	咽頭結膜熱		0.24	0.20	0.20	0.16	0.80
6	流行性角結膜炎		0.16	0.14	0.19	0.16	0.65

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の2月の上位6疾患の合計は10.67で1月の10.54と比べて横ばいで、全国よりも少なかった。

1位は感染性胃腸炎で5.78（1月1位4.79）で少し増加したが全国よりも少なかった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.17（同2位1.39）と少し減少し、全国よりも少なかった。3位はヘルパンギーナで1.07（同5位0.97）と横ばいだったが全国よりも多かった。4位は突発性発疹で1.06（同2位1.39）と少し減少し、全国よりも少なかった。5位は流行性角結膜炎で0.99（同12位0.00）と増加し、全国よりも多かった。6位是水痘で0.60（同6位0.68）と少し減少したが、全国よりも多かった。

＜高知県におけるCOVID-19＞

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図4に示す。昨年12月に入って報告が急増し、511人/月に昇った。その後は1月184人、2月37人と減少傾向にある。図5に12月1日以降の日毎の公表感染者数と感染経路不明者数を示す。一部の臨床検体は国立感染症研に分析を依頼しているが、今のところ県内では上記の変異株は検出されていない。3月3日時点で感染者は887人、死亡は17人となった。

12月2日に浜田知事は、県の対応ステージを「注意（黄）」から「警戒（オレンジ）」に、12月9日には「特別警戒（赤）」引き上げた。対策が奏効して患者数が減少したため、1月22日に「警戒（オレンジ）」に、3月4日には「注意（黄）」に引き下げることができた。図5にみる感染経路不明患者数は散発的に少数みられる。感染源を根絶やしにするには程遠い状況である。マスク、手洗い、三密の回避と基本をまもり、部屋の換気も励行したい。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	1週	5週	6週	7週	8週	計
1	感染性胃腸炎		1.14	1.14	1.68	1.82	5.78
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.21	0.36	0.14	0.46	1.17
3	ヘルパンギーナ		0.32	0.14	0.29	0.32	1.07
4	突発性発疹		0.32	0.21	0.14	0.39	1.06
5	流行性角結膜炎		0.33	0.00	0.33	0.33	0.99
6	水痘		0.21	0.14	0.21	0.04	0.60

図1,2021年3月3日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

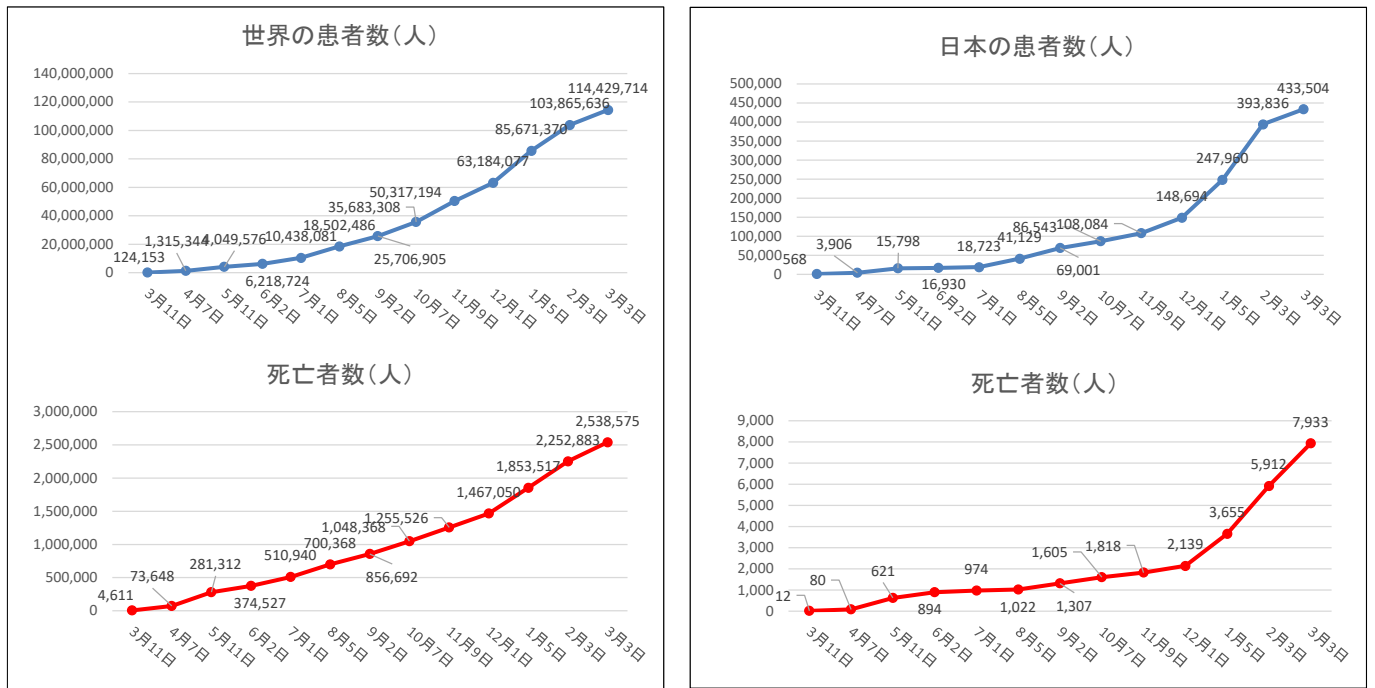


図2.高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的変化

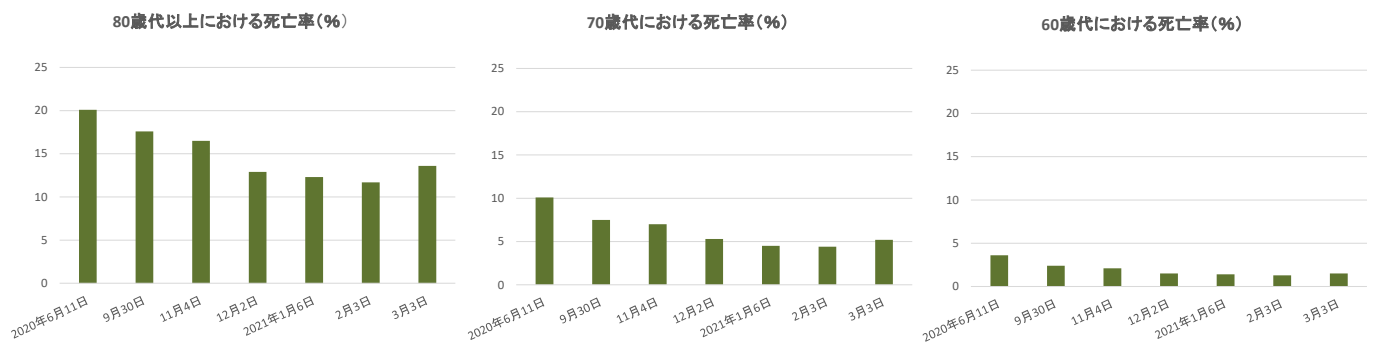


図3, 経時的な年齢層別感染者数

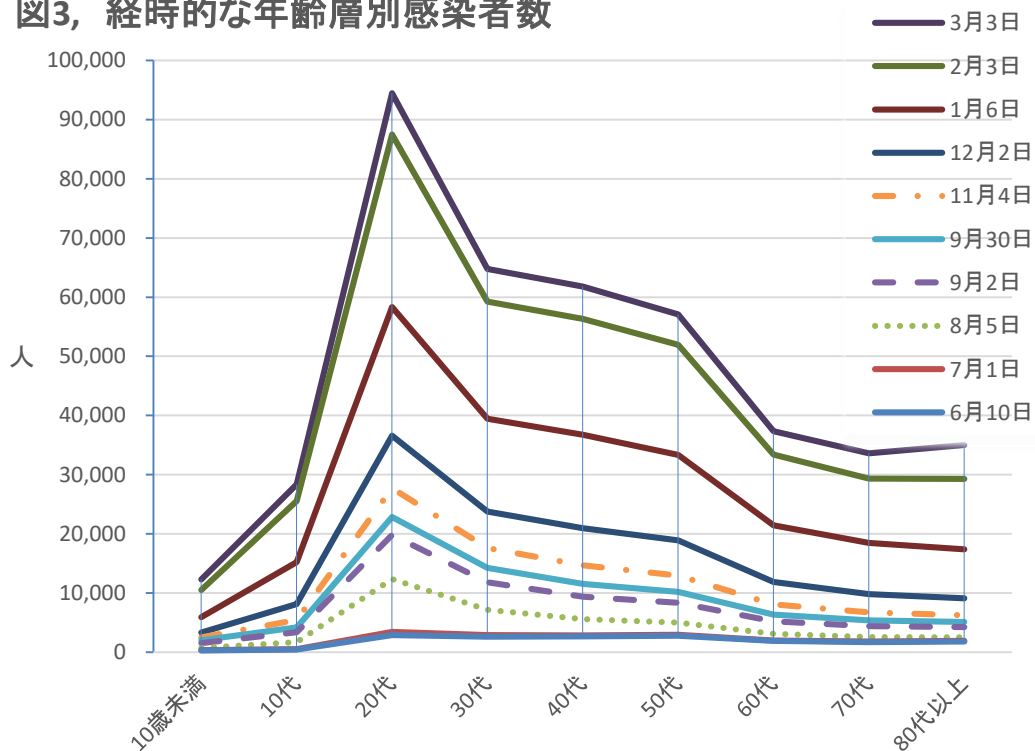


図4.高知県のCOVID-19月別患者数(人)

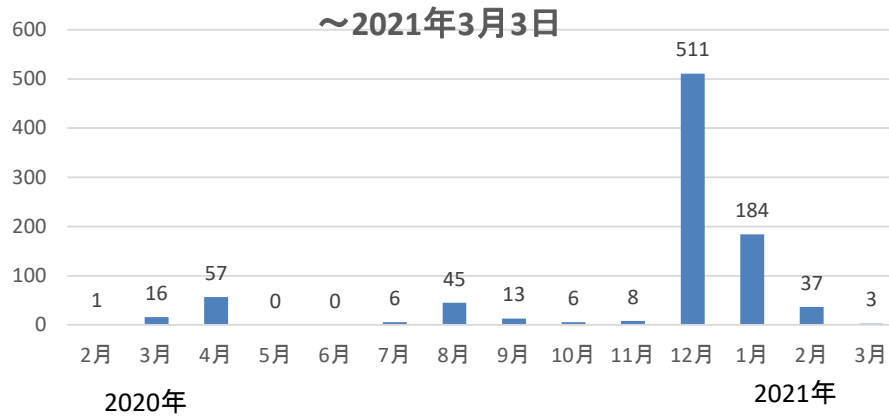
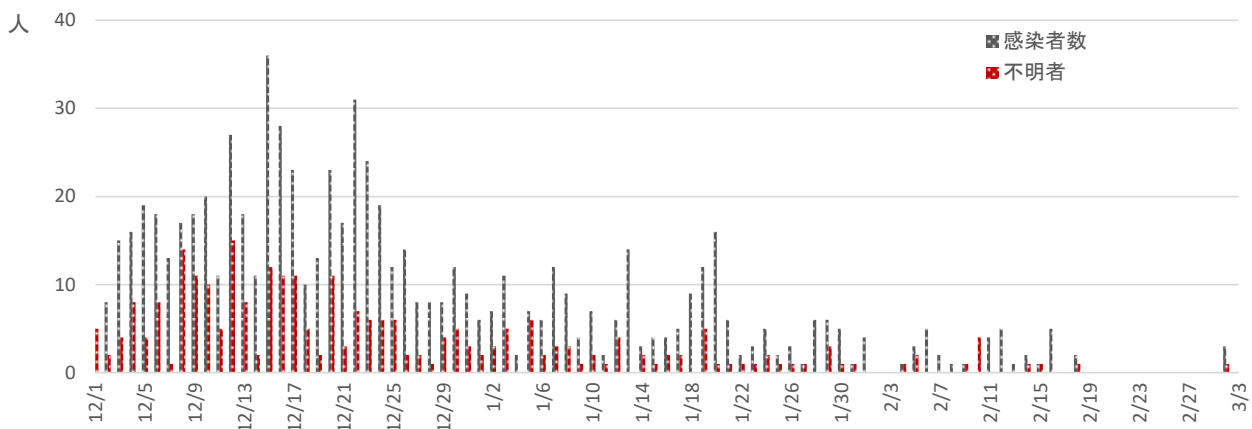


図5.高知県の患者数と感染経路不明者数



2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。衛環研はCOVID-19流行による業務増大のため、感染症発生動向調査としての他ウイルス検出は実施できていない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 1名（1月 0名）。2019-20年シーズンは対コロナ自粛の影響もあってか小さな流行に終わり終息した。2020-21年シーズンは、9月に1名、2月に1名のみ報告で、ウイルスも検出されていない。全国では、10月106名、11月141名、12月に328名、1月266名、2月は249名が報告されたが、散発的発生であり本格的な流行は起きていない。COVID-19流行との兼ね合いでインフルエンザの流行動向には例年以上に注目されたが、2020-21年の流行シーズンは、ついに起きないままに春を迎えそうである。

2) 咽頭結膜熱

報告数 12名（1月 15名）。2月としては平年並みの報告数だった。高知市、須崎、幡多から表記の順に多く報告された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 33名（1月 39名）。1月2月と同時期としては過去10年間で最も少ない報告数だった。安芸以外の県下全域から報告があり、須崎、高知市が特に多かった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 162名（1月 134名）。2020年2月は平年並みだったが、3月以降は、同じ時期として過去10年で最低の報告数で推移している。県下全域、特に中央西、幡多、高知市、安芸から多く報告された。

5) 水痘

報告数 17名（1月 19名）。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。安芸、高

知市、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。

6) 手足口病

報告数 16名(1月 37名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であったが、流行規模は平年並みで大きくはない。遅い終息に向かっていると思われる。須崎以外の全域から報告され、特に安芸から多く報告された。

7) 伝染性紅斑

報告数 6名(1月 3名)。2019年7月以降は多い報告数で推移していたが、2020年9月以降は1けたの報告数で推移している。安芸、須崎、高知市、中央東から報告された。

8) 突発性発疹

報告数 30名(1月 39名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 30名(1月 27名)。初夏の感染症だが、2020年は遅れて流行した。高知市、中央東、幡多から報告された。流行が遅かったために10~2月は過去10年で最多だったが、通年でみると大きな流行ではなかった。11月にCoxsackievirus A4型が2件、A10型が1件検出されている。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 1名(1月 1名)。過去10年で2018年に並んで最も少ない。中央東から1名報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 0名(1月 0名)。2020年は3月以降減少し、本来ならば流行期であるにも関わらず、11月から異例のゼロが続いている。コロナ自粛・衛生管理により流行がない。ただし九州、岩手、大阪ではまとまった数の報告がある。

12) 流行性角結膜炎

報告数 3名(1月 0名)。2020年の年間報告数は過去10年間では、2015年に次ぎ少ない年であった。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(1月 0名)。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年6名、2018年5名、2019年2名、2020年は4例であった。本年は1例も報告がない。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(1月 0名)。年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も0名で報告が少ない。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(1月 1名)。過去10年で最も少ない報告数である。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 16名(1月 26名)。平年並の推移である。高知市、中央東、幡多から報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(1月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例、2018年は1例、2019年は2例の報告があり、2020年は0例であった。

高知県における月別全数報告疾患（令和3年2月）

類型	病名	報告月		総計
		1月	2月	
2	結核	1	5	6
4	重症熱性血小板減少症候群		2	2
5	ウイルス性肝炎	1		1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		1
	梅毒	8	4	12
	破傷風	1		1
	総計	14	12	26

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2021年 2月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ					1			1		1,196
小児科	咽頭結膜熱			10		1	1		12	15	33
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6	16	2	4	5		33	39	346
	感染性胃腸炎	13	29	59	23	2	36		162	134	527
	水痘	10	2	4			1		17	19	14
	手足口病	3	5	4	2			2	16	37	25
	伝染性紅斑	1	1	3		1			6	3	38
	突発性発疹	1	2	15	6	3	3		30	39	24
	ヘルパンギーナ		6	21				3	30	27	1
	流行性耳下腺炎		1						1	1	14
	RSウイルス感染症										55
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			3					3		3
STD	性器クラミジア感染症			1					1	4	6
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ		1						1		
	淋菌感染症										3
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎									1	12
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			1					1	1	3
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		2	13				1	16	26	17
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症										1
	薬剤耐性緑膿菌 感染症										
計		28	55	150	33	12	52	330	346	2,318	
前月		13	60	166	31	19	57				
前年同月		95	418	1,046	226	161	372				
小児科定点数		2	7	9	3	2	5				

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2021年

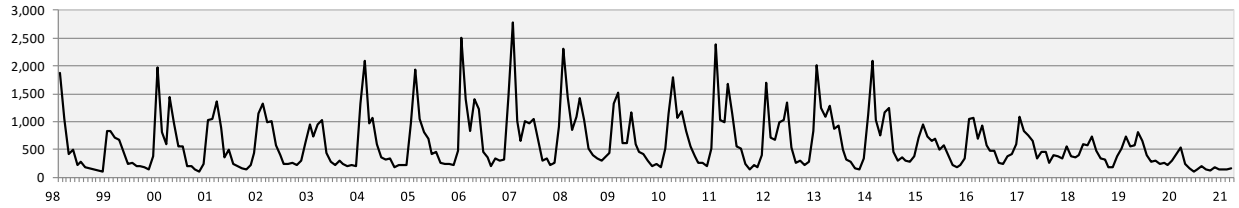
2月

定点当たりの人数

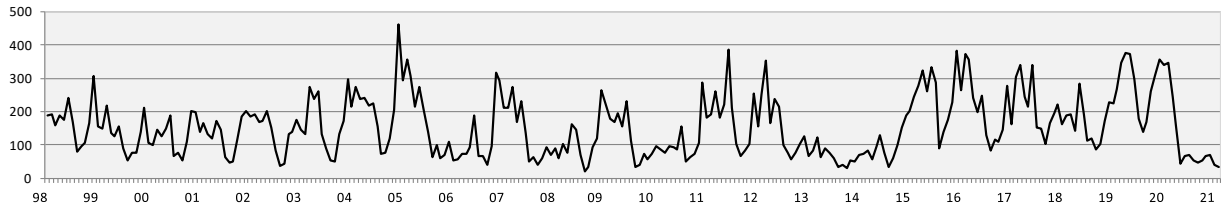
定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ					0.25		0.02		24.92
小児科	咽頭結膜熱			1.11		0.50	0.20	0.44	0.54	1.10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.85	1.78	0.67	2.00	1.00	1.17	1.39	11.53
	感染性胃腸炎	6.50	4.15	6.56	7.67	1.00	7.20	5.78	4.79	17.57
	水痘	5.00	0.29	0.44			0.20	0.60	0.68	0.47
	手足口病	1.50	0.71	0.44	0.66		0.40	0.57	1.32	0.84
	伝染性紅斑	0.50	0.14	0.33		0.50		0.22	0.11	1.27
	突発性発疹	0.50	0.29	1.66	2.00	1.50	0.60	1.06	1.39	0.80
	ヘルパンギーナ		0.85	2.33			0.60	1.07	0.97	0.03
	流行性耳下腺炎		0.14					0.04	0.04	0.46
	RSウイルス感染症									1.83
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			3.00				0.99		1.00
STD	性器クラミジア感染症			0.50				0.17	0.67	1.00
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		0.50					0.17		
	淋菌感染症									0.50
基幹	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎								0.13	1.51
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限り)			0.20				0.13	0.13	0.38
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2.00	2.60			1.00	2.00	3.25	2.13
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									0.13
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		14.00	7.42	14.65	11.00	5.75	10.20	10.97	11.23	60.82
前月		6.00	7.56	15.76	10.33	9.50	11.40			
前年同月		30.00	47.85	77.82	54.41	72.75	56.42			

注目される疾患別月別推移

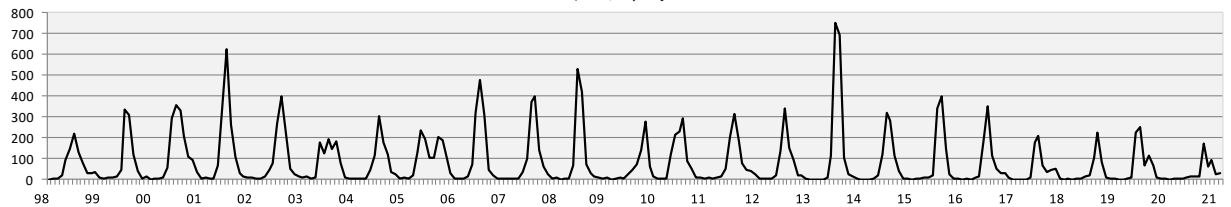
感染性胃腸炎



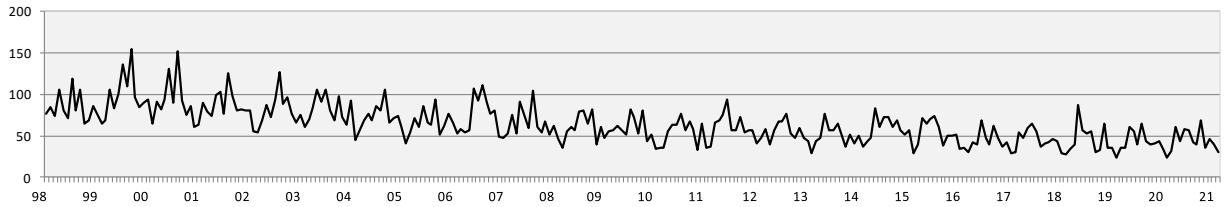
A群溶血性レンサ球菌感染症



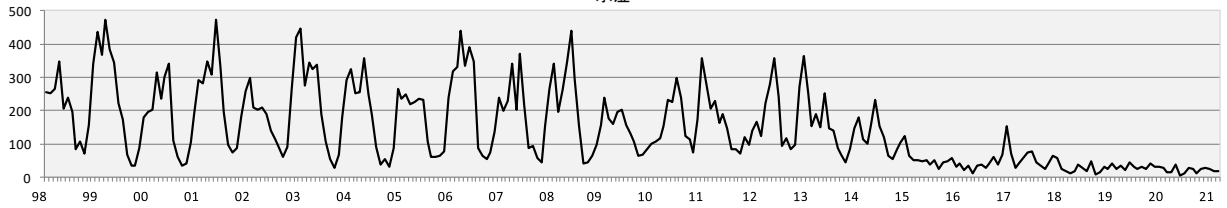
ヘルパンギーナ



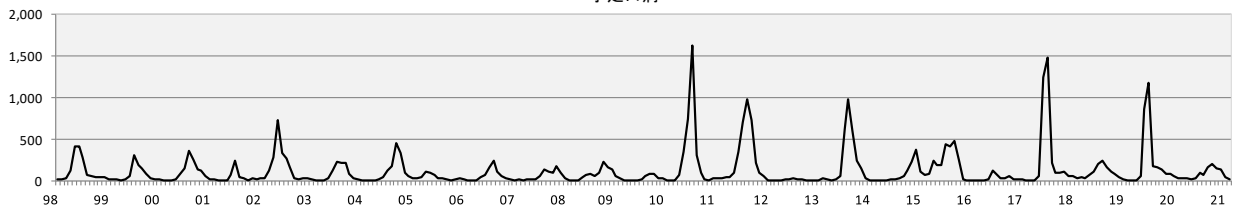
突発性発疹



水痘



手足口病



類型	病名	報告年																				総計			
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	2021
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	6	1816
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	6	1816
3	コレラ	1					1					1													3
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2					27
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		207
	腸チフス		1						1									1				1			4
	パラチフス	2																							2
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	243
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						3	1			2			34
	E型肝炎											1		1								2	1		5
	オウム病			1		1														1					3
	Q熱	1	1	2				1																	5
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7	5	5	9	6	2	51
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3		93
	デング熱											1				3	2	1				2			9
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23		195
	日本脳炎	1	1	1					1		1	1													6
	マラリア								2					1									1		4
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8		81
	レプトスピラ症										1	7	3	4	2	1				1					9
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	2	495
5	アメーバ赤痢	2	2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3			47
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	1	2	1	61
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	21	20	10	1	121
	急性弛緩性麻痺																				1	2			3
	急性脳炎							1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1	1	2	1			21
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3			2			2	1	1	3			35
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	2		30
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		81
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1					1					8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1		24
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	1	99
	水痘(入院例に限る)																2	1	1	3		3			10
	髄膜炎性髄膜炎									1															1
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	12	243
	播種性クリプトコックス症																		1	3	5				9
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	36
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1		1		1			5
	百日咳																				173	172	35		380
	風しん										1	1				4	9	1				3			19
	麻しん											5													5
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	18	1238
新型	新型インフルエンザ												34												34
	計												34												34
動物	鳥インフルエンザ												1												1
	計												1												1
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	26	3827